

H31年度

輸出VC

国内VC

活魚流通構築推進協議会

■取組の背景

- 従来、鮮魚の高付加価値化が期待できる活魚出荷は、活魚輸送車に依存しており、高額な初期投資やドライバー不足が問題となっていた。
- 近年は水産物の生産量及び消費量が減少しており、それに伴って漁業就業者は年々減少している。

■取組の目的

- 新たな活魚輸送システム「魚活ボックス」の構築
- 活魚の新たなマーケット開拓
- 活魚販売による生産者の所得向上

■協議会の構成員と役割

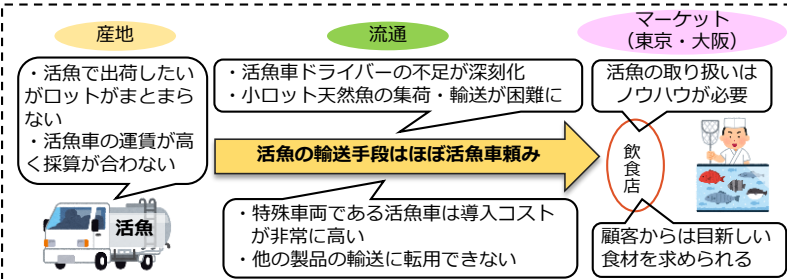
	段階	名称	役割
事業実施者	生産	秀長水産株式会社	・養殖マダイの生産
	生産	苫小牧漁業協同組合	・活魚の生産
	生産	山口県漁協はぎ統括支所	・活魚の生産
	生産	山口県漁協須佐支所	・活魚の生産
	生産	山口県漁業協同組合	・各支所との連絡
	流通販売	日建リース工業株式会社	・活魚の蓄養・販売 ・飲食店での試験販売
	流通	石油資源開発株式会社	・生産者の紹介
	その他	山口県萩市農林水産部水産課	・アドバイザー

■取組内容

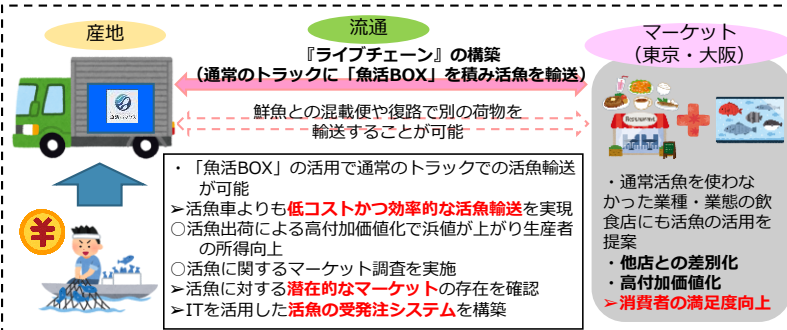
生産	◆「魚活ボックス」を用いた活魚流通網の構築 ✓ 活魚出荷試験➡構成員から活魚を仕入れ、「魚活ボックス」を用いた輸送試験を実施 ✓ 養殖魚の出荷試験➡構成員の協力により養殖魚（主にマダイ）の輸送試験を実施 ✓ 活魚輸送の効率化に向けた検討➡二酸化炭素を用い活魚を麻酔状態で輸送する試験や高濃度酸素運搬等、活魚輸送を効率化するための技術開発を実施
	◆活魚販売の実施 ✓ マーケット調査の実施➡流通関係者や飲食店関係者を対象に、活魚に対するニーズを把握 ✓ 活魚センターを活用した販売➡大阪に開設した活魚センターを拠点として各地から集荷した活魚の試験販売を実施し、実際の流通の際に発生する問題点や課題を把握 ✓ 飲食店を利用した試験販売➡構成員が運営する飲食店を用いて活魚料理の提供を行うとともに、来客した顧客を対象としてマーケット調査を実施
加工・流通	
販売	◆活魚マーケットの開拓 ✓ 活魚流通状況の調査➡全国の生産者を対象として、活魚の水揚げ状況や流通実態を調査し、活魚流通ルートの構築に対するニーズを把握 ✓ 商品形態・メニュー開発➡活魚の流通拡大に向けて、最適な商品形態や消費者ニーズに合わせたメニュー開発を実施 ✓ 活魚流通システムの構築➡活魚の流通を円滑に行うシステムを構築し、生産者が販売車もしくは消費者に直接活魚を販売できる体制を構築

「魚活ボックス」を使った新しい活魚流通チェーンの構築

■取組実施前の状況



■本取組で構築したバリューチェーン



■取組の現状と今後の展望

- 「魚活ボックス」は改善を重ね、輸送する活魚の斃死率は大幅に改善。
- 「魚活ボックス」の機能改善にも継続して取り組んでいる。
- 「魚活ボックス」の利用者は年々増加。利用者から新たな利用者へと評判が拡大。

★本取組によって得られたバリュー★

課題解決（物流面）	「魚活ボックス」を用いた新たな活魚流通システムの構築
付加価値向上	低コストで効率的な活魚輸送による高付加価値化
販路開拓	活魚に関する消費者ニーズの把握とニーズに合わせた販売